そなえガイド（土砂災害・洪水）

こまめに正確な情報を入手しよう

現在/今後の雨雲の動き、河川水位情報等を気象庁/神奈川県より逐次入手し、また災害の危険性が高まり、避難する必要が生じた場合、横浜市が避難に係わる指示を発令するので、対処する。

入手方法は下記のとおりです。

ハザードマップによりハザードや避難ルート情報を確認する

横浜市が公開している洪水・内水、土砂災害などのハザードマップやパンフレットは、横浜市のホームページ若しくは区役所で入手しましょう。

自動配信される情報により状況を知る

● 横浜市防災情報Eメール　要事前登録によりパソコン・携帯電話に配信

【登録方法】

・二次元コードを読み取り

・空メールを送信 entry-yokohama@bousai-mail.jp

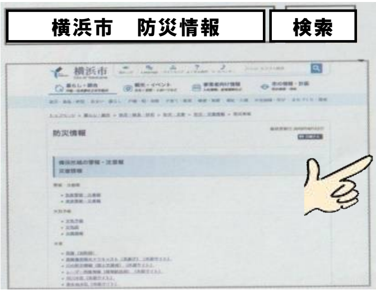
●その他

・ファックス、緊急速報メール、屋外スピーカーからの音声放送やサイレン、広報車、テレビ・ラジオ等

状況により自身で情報収集する

●ホームページ　気象警報や河川の水位、潮位等を確認

・横浜市　防災情報



・よこはま　雨量データ等を確認

・降水ナウキャスト　現在/今後の雨雲の動きを確認

・横浜市トップページ　緊急情報

●その他

・SNS、テレビ、ラジオ等

もしもの時にそなえよう

そなえマップ（洪水）で自宅と避難場所を確認しよう

●家族や会社などで、みんなで確認しよう

●自宅付近が洪水で浸水した時にどのくらいの水深になるのか確認しましょう。

●自宅から避難場所（川和小学校）までの複数の道順を、「そなえマップ」に書き込みましょう。

●下水道などから水があふれることがあるので、「そなえマップ（内水）」を参考に、浸水のおそれがある区域を確認する。

●地域では、「そなえマップ」を活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。

避難時の持ち出し品を確認しよう

●持ち出し品は準備し、すぐに持ち出せるようにする。

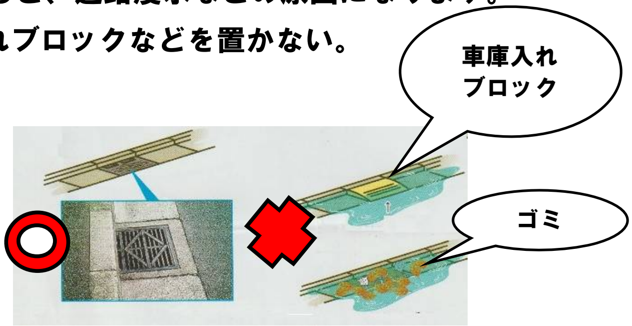
●持ち出し品はできるだけ少なくしましょう。

（食料、水、タオル、ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、 マスクなどを、両手があくものに収まるリュックサックにする。 ）。

側溝や雨水ますを点検しよう

●雨水ますの吸い込み口がごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。

● 雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かない。



浸水に備えよう

●土のうやプランター、ごみ収集袋などを利用 した水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。

●大雨の際には、トイレ、風呂場の排水口等から下水が逆流することがあり、水のうなどでふさぎましょう。

●家庭でできる浸水防止対策の一例

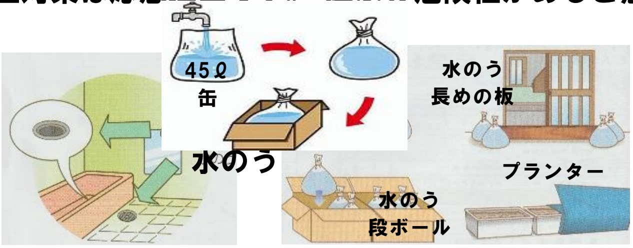
・ごみ収集袋（45リットル）を二重にし、半分くらい水を入れ、水のうを作ります。

・水のうと長めの板などと組み合わせて、 浸水を防ぎます。

・水のうは段ボール箱に詰めることで、 強度が増します。

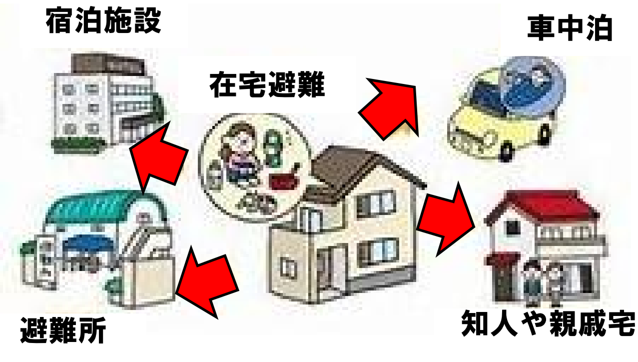
・プランターをならべ、レジャーシートで包み 浸水を防ぎます。

●浸水防止対策は応急処置です。 浸水の危険性があると感じたときは、早めに避難しましょう。



避難のときはこんな点に注意しよう

避難の考え方



避難の考え方

汜濫した水の流れは、勢いが強いので、浸水の恐れがある場合は避難を開始してください。

●避難所（川和小学校）への避難

避難所 （川和小学校）が開設されているか、区ホームページ 等で確認する。

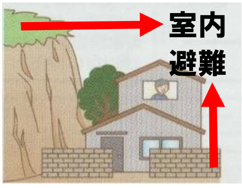
●安全な場所へ避難（水平避難）

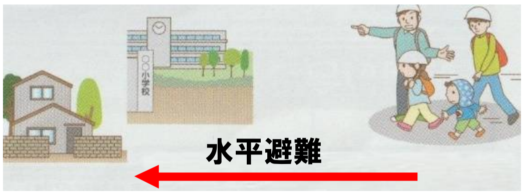
近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など

夜間や危険が差し迫っている場合、 建物内の安全な場所（上層階や斜面の反対側など）

●安全な場所へ避難（垂直避難）

頑丈な建物の2階以上または、 近隣の高い建物へ避難





安全な経路で避難しよう

●事前にハザードマップで安全避難経路を確認する

●浸水深１０cm以上では自動車の走行に支障があるので、自動車での避難はしない。

●地上が浸水すると 一気に水が流れ込んでくるので、速やかに 地上階に避難しましょう。

●河川沿いや急傾斜地（崖）沿いの道は避け、また 氾濫した水は、茶色く濁っており、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があ るので、転落しないように注意する。

●洪水時には地域の皆さんで協力し合って安全に避難しましょう。

●高齢者、子ども、障がい者などは避難に時間を要するため、避難レベル3にかかわらず雨の降り方等により危険と感じたら早めに避難する。

大雨のときはこんな点に注意しよう

集中豪雨に 注意しよう

突発的かつ局地的な集中豪雨に備えて、ふだんから 雨の様子をチェックして おきましょう。

気象庁が使う表現	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
	1時間に10～20ミリの雨	1時間に20～30ミリの雨	1時間に30～50ミリの雨	1時間に50～80ミリの雨	1時間に80ミリ以上の雨
雨の様子					
	・ザーザーと降る	・土砂降り	・バケツをひっくり返したよう	・ゴーゴーと滝のように降る	・視界が悪くなる
屋外	・一面に水たまりができる		・道路が川のようになる	・マンホールから水が噴出する	・一部浸水する

避難情報がでたら

警戒レベル	とるべき行動	避難情報（横浜市）	気象情報（気象庁）	水位情報（神奈川県）	避難情報の基準となる水位
警戒レベル 5	●すでに災害が発生しており、命を守るための最善の行動をとる。	災害発生状況	大雨特別警報	反乱発生情報	
警戒レベル 4	【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ●避難場所まで移動が危険な場合は、近くの安全な場所や自宅内の安全な場所に避難	避難指示（緊急）	土砂災害警戒情報	−	
	●速やかに避難先場所へ避難する。 ●避難場所まで移動が危険な場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難する。	避難勧告		氾濫危険情報	氾濫危険水位
警戒レベル 3	【危険な場所から高齢者等避難】 ●避難に時間を要する人とその支援者は、避難場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などに連絡、持ち出し品の用意など避難の準備をするとともに、危険と思ったら、早めに避難する。	避難準備・高齢者等避難開始	大雨警報（土砂災害・浸水害） 洪水警報	氾濫警戒警報	避難判断水位

※避難情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください。

※横浜市は、気象情報、水位情報が発表されたことに伴い、直ちに避難勧告等を発令するわけではありません。

※避難とは「難」を「避」けることであり、避難場所にいくことだけなく安全を確保することです。

※警報等が解除されても、河川の水位情報等には注意しましょう。

（出展：都筑区浸水ハザードマップ）